



1997年（平成9年）、日本のサッカーがイランに勝利しワールドカップ初出場を決めた「ジョホール・バルの歓喜」…同じ年、本校はここジョホール・バルの地に開校しました。ジョホール・バルはマレー半島最南端に位置し、わずか1 Km 余りの海峡を挟んでシンガポールと向かい合っているマレーシア第2の都市です。マレーシア政府のイスカンダル・プロジェクトのもと、急速な発展を続けるアジア有数の経済都市でもあります。

本校が創立する以前、日本語での教育を希望する児童生徒は、毎日片道2時間、パスポートを携えてシンガポールまで通学していました。そうした中、ジョホール日本人会のご尽力のもとで学校設立委員会が発足し、マレーシア教育省の認可を受けて本校が誕生しました。今年で創立28年目を迎えています。

令和6年4月現在、小学部48名、中学部14名、計62名の児童生徒が在籍しています。学習面では日本国内に準ずる教育課程を編成し、さらに英語教育に力を入れています。行事面では2大行事である「運動会」「ペスタクラパ（文化祭・学習発表会）」を中心に、「日本文化の日」「マレー文化の日」（現地校やインターナショナル校との交流）、小学部修学旅行（国内）、中学部修学旅行（国外）、宿泊体験学習などで、国際人としての感覚を身に付けられるよう、様々な教育プログラムを提供しております。

さて、本校では、「**児童生徒一人ひとりの個性を最大限に伸ばし、『持続可能な社会の創り手』を育てることにより、自他の幸福を築くとともに国際社会に貢献することのできるグローバル人材を育成する。**」を教育目標に掲げ、『**信頼される学び舎づくり**』をめざして、教職員が一丸となって英知と熱意を結集し、保護者や地元邦人社会の皆様と連携を図り、弛まぬ努力を続けてまいりました。

一人ひとりの個性を伸ばすために「**情を持って接する、思いを持って導く（情接思導）**」教師の姿勢を大切に、日々児童生徒と向き合います。そして、アフターコロナの今、グローバル世界をたくましく生き抜く人間力を培うために、確かな学び・深い学びを実現する授業を土台として、多様性を理解する交流活動やICTを活用した教育改革にも取り組んでまいります。

また、本校では「在外教育施設」「小規模・小中一貫校」という特色を生かし、国連が推進するSDGs（持続可能な開発目標）の達成のためのESD（持続可能な開発のための教育）をカリキュラムマネジメントの中核に据え、社会に開かれた教育課程を編成することにより、前述の教育目標に掲げた地球的課題を我が課題としてとらえ、身近なところで行動を起こせる『**持続可能な社会の創り手**』の育成に努めてまいります。

以上、本校の歴史・目標・活動等に関しまして、ご紹介させていただきました。ご入学をご希望・ご検討される皆様は、どうぞ遠慮なくご一報ください。

第10代校長 北村 健治（静岡）